

全国市議会議長会欧州都市行政調査報告書

長崎市議会議員 梶村恒男

訪問の目的

欧州各都市における地方自治の実態や行政施策の実情について、調査研究を行い、今後の市政振興に資するとともに、訪問先の関係者との交流や意見交換を通じて相互の理解と認識を深め、国際親善に寄与することを目的として、全国市議会議長会主催による平成 25 年度欧州都市行政調査団（19 市 30 名編成）に参加し、欧州各国の 3 都市を訪問しました。

以下、その概要についてご報告いたします。

訪問期間 平成 25 年 10 月 2 日(水)から平成 25 年 10 月 10 日（木）（9 日間）

訪問都市 フランス共和国：パリ
デンマーク：コペンハーゲン
ドイツ連邦共和国：ハイデルベルク

日 程

月 日 (曜)	発着地/滞在地名	視 察 地	摘 要
10月 2日(水)	東京(成田) 発 ----- (日付変更線) パリ(ド・ゴール) 着		【所要時間：12 時間 30 分】
3日(木)	パリ	ノジャン・シュル・マルヌ市議会公式訪問	○別名「白ワインの町」と呼ばれるこの市は、フランス国道ゼロ地点より 15 マイル離れたパリ郊外の町である。パリのベッドタウンとしての役割を果たし、大都市と隣接した街の議会制度と児童福祉・家族問題について調査
4日(金)	パリ	(財)自治体国際化協会パリ事務所	○フランス、デンマーク、ドイツの地方自治制度についてのレクチャー
5日(土)	パリ(ド・ゴール) 発 コペンハーゲン 着		【所要時間：1 時間 50 分】
6日(日)	コペンハーゲン	コペンハーゲン	○文化遺産の保護と文化事業等視察 コペンハーゲンはデンマークの首都で、中世の面影を残す建造物が色

			<p>濃く残存している。</p> <p>アクセスの良さに加え、環境・福祉政策のあらゆる分野において先進地であり、市街地での環境保護とバリアフリーが配慮されており、現在では、経済・社会・文化の面で新たな発展を遂げている。</p>
7日（月）	<p>コペンハーゲン</p> <p>ネストヴェ</p> <p>コペンハーゲン</p>	<p>ネストヴェ市議会公 式訪問</p> <p>コペンハーゲン</p>	<p>○コペンハーゲンから南西 88km に位置する、人口約 5 万人の都市で、コペンハーゲン、ロスキレに次ぐジェラン島第 3 の都市となっている。</p> <p>高齢者福祉や環境政策等、あらゆる市民サービスに力をいれたネストヴェでは、高齢者福祉施策と議会制度を調査する。</p> <p>○テーマ：環境教育と処理システム 環境に根ざした継続可能な思考とライフスタイルを身に付けられるように体系化されており、それら教育に関連する体験を課外授業として多くの学校等にも提供しているコペンハーゲン・エネルギー&水科学センターを訪ね、下水処理やゴミ分別処理等の先進的な環境教育施設と施設運営等を調査</p>
8日（火）	<p>コペンハーゲン発</p> <p>フランクフルト着</p> <p>ハイデルベルク</p>	<p>ハイデンベルク</p>	<p>【所要時間：1 時間 35 分】</p> <p>○テーマ：地域開発・都市計画</p> <p>ドイツ有数の活気ある科学研究都市でもあり、経済拠点のひとつである同市のバーンシュタット地区開発局（都市計画課）を訪ね、そこに働く人々に相応しい快適な住居や高質な文化施設が整いつつある広域な旧鉄道貨物ヤードを利用するドイツ最大の都市開発プロジェクト概要と再開発地区を調査</p>
9日（水）	<p>ハイデルベルク滞在</p>	<p>カールスルーエ 市議会 公式訪問</p>	<p>○ドイツ南西部、シュヴァルトの北端ライン川沿いに位置する人口約 28 万人の都市である。</p> <p>ドイツでは比較的若い都市ではあ</p>

	フランクフルト発		<p>るが、連邦裁判所、憲法裁判所などがあり中核都市及び国の司法首都になっている。</p> <p>積極的な緑地整備が進められ、扇形の街の形状にともない、「緑の扇の街」と呼ばれている。</p> <p>それらの環境保全の都市づくりと議会制度を調査。</p> <p>【所要時間：11時間20分】</p>
10日（木）	東京（成田）着		

1 主な視察先

フランス

- ① ルーブル美術館
- ② ノジャン・シュル・マルヌ市議会公式訪問
- ③ 自治体国際化協会パリ事務所長黒瀬敏文氏のレクチャー
- ④ 世界遺産ベルサイユ宮殿

デンマーク

- ① ノースジールランド地方
- ② クロンボルグ城、フレデリクス城
- ③ ネストヴェ市議会公式訪問
- ④ コペンハーゲン・エネルギー・水科学センター公式訪問

ドイツ

- ① ハイデルベルク市バーンシュタット地区開発局公式訪問
- ② ハイデルベルク城
- ③ カールスルーエ市議会公式訪問

2 視察の目的

- ① フランス、ドイツ、デンマークの地方自治行政の現状について
- ② 芸術、文化遺産の文化的影響による観光都市の成功を視察
- ③ デンマークにおける高齢者福祉対策についての視察
- ④ 環境関連施設視察及び環境教育の視察（デンマーク）
- ⑤ ドイツのバーンシュタット地域開発状況視察（ドイツ）
- ⑥ カールスルーエ市議会システム及び行政政策の調査（ドイツ）

3 視察概要

【フランス共和国】

- ① 面積 54.4 万 k m²（日本の約 1.5 倍）
- ② 人口 約 6,503 万人

- ③ 首都 パリ
- ④ 公用語 フランス語
- ⑤ 主要宗教 カトリック

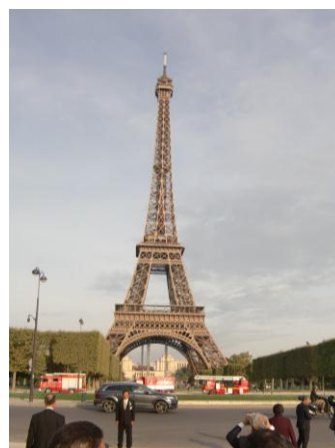
経済指標

2012 年の実質 GDP 成長率は 0.03%

失業率は 10%超

主要産業 科学、機械、繊維、航空、原子力

欧州最大の農業生産国



エッフェル塔

【フランスの地方制度】

フランスの地方制度は州(州 96 団体)・県(96 団体)・コミューン(36,799 団体)になっており、コミューンは大半が 2,000 名~10,000 名未満である。コミューンの権限は都市計画、小学校の施設管理、廃棄物の収集（選挙・戸籍につき国の権限委任）

最近小規模コミューンを補完するため広域連合体（2,576 団体）が急速に増加しており、コミューンの 96%が参加している。課税権を保有することができるために増加している。市長は議員の中から選出され 6 年の任期である。

【ノジャン・シュル・マルヌ市議会訪問】

ノジャン・シュルはマルヌ郡の小郡庁所在地で人口 30,600 人ほどの町。パリのヴァンセンウの森と接する。ノートルダム・ド・パリの前にあるフランス国道ゼロ地点から 12km の地点にある。ノジャン・シュル・マルヌは別名「白いワインの街」と呼ばれているパリ郊外の町である。南側が丘の中腹、東側がマルヌ川の蛇行部分である。

大都市に隣接した街の議会制度と児童福祉・家族問題、マルヌ市議会のテレーズマリ・メト氏の説明を受けた。

以前は議会場は議会と結婚式場を兼ねていた。マルヌ川沿いにレジャーボートが 175 艘浮かびボート競技が盛んである。川沿いのレジャーが市の活性化の柱として町おこしの原動力になっている。トレーニングセンターの施設も完備していて市民は気軽に健康的な環境を享受している。風光に恵まれ人情の温かみに包まれた地域である。

マルヌ市民は教育、福祉は質の高い町である。

ノジャン・シュル・マルヌ市役所前



テレーズ・マリー・トーメ副市長から歓迎挨拶を受けた後、調査団を代表して藤井団長が訪問の挨拶を行い、その後吉田副団長より屏風時計を贈呈。左より、吉田副団長、テレーズ・マリー・トーメ副市長、藤井団長。

ノジャン・シュル・マルヌ市役所の結婚式場を兼ねた大広間にて





市職員モニック・ファランパン氏から説明



【自治体国際文化協会パリ事務所】

地方公共団体の国際文化推進のための活動、地方公共団体が共同して行う為の組織として設置された。姉妹都市、友好都市協定都市といった親善交流など地方公共団体による海外活動の支援、海外の地方自治制度に関する情報の提供、在外外国人のための情報提供、多文化共生の町造り支援などに関わっている。



財)自治体国際化協会パリ事務所黒瀬敏文所長より説明

各都道府県、政令指定都市に支所を置くとともに、ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京に海外事務所を設置している。主に自治体の海外における活動を支援し、地方の国際化、海外における地域活性化の方策などについての情報の収集、提供や調査研究を行う。対日理解促進を図るため、わが国の地方自治体制度や地方財政制度を中心とした諸事情を海外に紹介している。全国市議会議員欧州行政視察団は自治体国際文化課協会パリ事務所の黒瀬氏よりフランス、デンマーク、ドイツの地方自治体のレクチャーを受けた。



所感

パリは「芸術の都」「華の都」と呼ばれて文化的影響を世界に与え続けた屈指の観光都市である。主な集客装置は歴史的な建造物、フランスで活躍した著名な芸術家の多くの美術品の他、戦利品や購買により収集された世界一級品の圧倒的な絢爛豪華さに唯唯圧倒された。

【デンマーク】

- ① 面積 約 4.3 万 k m² (九州とほぼ同じ)
- ② 人口 約 554 万人
- ③ 首都 コペンハーゲン
- ④ 公用語 デンマーク語
- ⑤ 主要宗教 ルーテル派キリスト教



コペンハーゲン市 ストロイエ通り

コペンハーゲンはデンマーク東部に位置する、デンマーク最大の都市で、市の人口は 56 万人、コペンハーゲン県の人口は 112 万人。

人材、文化、政治などを対象にした世界都市ランキングにおいて、世界 42 位の都市と評価されている。王宮の北方には星型の堀を廻らした城砦があり、その海岸にアンデルセンの童話で有名な人魚の像がある。市内には緑地が多く由緒ある宮殿や教会などの建造物に富み、ヨーロッパでもっとも美しい都市の一つである。

【地方自治体の概要、役割】

2007 年の自治体改革で、自治運営の効率化と行政サービスの質向上を目的として自治体の統合、市への権限移譲が進められた。14 県が廃止され 5 個の広域圏（レギオン）に 271 市が 98 市に統合された。

地方議会議員は 4 年に 1 回行われる地方選挙により行われる。議会にはリコールや選挙の制度は無く 4 年間の任期を全うするのが前提である。

市や広域圏の首長は、各議会の議員により、議員の中から選出される。（最大政党が首長を指名する）首長は、刑事犯罪により有罪となった場合にのみ罷免され、議会の賛成多数により罷免されることは無い。

地方財政は所得税（国が徴収し一定割合が地方に分配される）資産税、国からの補助金、特定サービスに係る手数料からなる。

年金など国が費用を負担している一部の社会保障を除き、地方自治体の自由裁量にて実施。また近年の自治体改革により、精神科医療や保育を扱う 24 時間特別サービスセンターなど主に福祉事務の権限がカウンティ（県）から市に移管された。



アマリエンボー宮殿にて説明を受ける団員。



エネルギー&水科学センターにて、コペンハーゲン市内におけるエネルギーの需要と供給の関係について、模型を使って説明を受ける。

【デンマークの都市ネストヴェ市】

コペンハーゲンから南西へ 88km のところに位置する、人口約 5 万人の都市である。

ネストヴェ市は高齢者福祉や環境政策などあらゆる市民に力を注いでおり、環境に根ざした継続可能な考え方、生活態度を身に付



ソーレン・レスベック議員へ扇子を贈呈

けるように、体系化されている。

学校などにも高齢者福祉や環境政策などの教育に関連する体験を課外授業として提供している。

所感

デンマークは470島からなる山らしい山が無い平らな地形である。

自転車が最も重要な交通手段で、大きな通りは歩道と車道の上に自転車専用道路があり、自動車と同じで右側通行であり逆走はできない。自転車道路が非常に整備されていて自動車より速いときが多々あると聞いた。日本も平坦地は自転車道路の整備をすれば、省エネルギーにも健康増進にも良いと思った。

日本も今後ますます高齢化が進むので、高齢者福祉など学生にも体験教育が必要と思った。



ネストヴェ市議会にて、ソーレン・ディステッド議員より議会制度等の説明を受ける。

【ドイツ連邦共和国】

- ① 面積 約 35.7 万 k m² (日本の約 94%)
- ② 人口 8,180 万人 (外国移住者 648 万)
- ③ 首都 ベルリン
- ④ 公用語 ドイツ語
- ⑤ 主要宗教 キリスト教



高台から見下ろすハイデルベルク市内

【地方自治体の概要、役割】

日本の県に相当する郡は個々の市町村を超える事務の処理について権限を持つ自治組織でかつ、州の下級行政官庁として市町村の監督機関である。郡の構成する市町村において、一定の規模（4～8万人）以上の都市は、郡が行う業務を担う「郡独立市」となる。独立市は概ね4～8万人以上、市町村は平均6千人の人口で構成される。市町村はもっとも基礎的な地方自治単位で強い自治権を持つ。市、町、村の区別は無い。

地方自治単位の広域的な相互協力のために広域行政制度がある。ごみ処理、上下水道、消防、学校運営特定の実施が単独では非効率な場合及び該当業務が複数の市町村にわたる場合には関係地方自治体によって組織される。議員にて選出され、任期は議長任期と同じである。

ドイツの地方自治体の地方自治体の課題は日本と同じ、人口構成の変化で高齢化、過疎化を含む地域間の移動、少子化である。これといった対策が無く困っている。

【ハイデルベルクのバーンシュタット地域開発局】

ハイデルベルク市はドイツでもっとも暖かい地方で、ネッカー川が市内を東から西に流れており、植えられたアーモンド、イチジク、オリーブが育っている。

人口は15万人で古城とドイツでもっとも古い大学ルプレヒト・カールがあり、数多くの観光客や学者を集める都市である。

このハイデルベルク市が持続可能な町造りとして目指しているのがバーンシュタットプロジェクトである。

旧鉄道貨物ヤード跡地 116ヘクタールを利用するドイツ最大級のバーンシュタット地域市街地開発が2010年から進んでいる。市街地と同じ広さの地域に大学や研修所施設、国際的企業の研究機関が集まり、そこに働く人々に相応しい快適な住居や高質な文化施設が整備されつつある。住宅を含むすべての建物が、ドイツ発祥の超エネルギーパッシブハウスの基準で建てられている。熱の供給は地域熱供給局が請負い、すべて再生エネルギーにする予定である。

スマートグリッド（次世代送電網）が採用されている。

このバーンシュタット地域は欧州有数のパイオニア的市街地開発地域である。



パッシブハウス基準で建てられた建物



バーンシュタット地区内にある人口水路。屋上に降る雨や雪の一部が流れ込むようになっている。↑

壁の外に貼られた断熱材（発砲スチロール）↓



【カールスルーエ】

ライン川の近くに位置する工業都市である。人口28万人。主産業は石油化学、エレクトロニクス、電気、自動車関連事業である。日本の競争相手である。

歴史的背景から連邦裁判所、連邦憲法裁判所の政府機関や州立美術館がある。カールスルーエは宮殿を中心に道路が計画都市でドイツのバロック都市として有名である。

緑豊かな土地柄を活かした緑地整備を進めており「緑の扇都市」と呼ばれている。工業団地の環境保全の造りを視察。



カールスルーエ市議会。クラウス・シュタッフ副市長より挨拶



御礼の挨拶を行う藤井団長。左よりメルヘン議員、ホイエム議員、市職員のフランク・ライヤル氏。



所感

ハイデルベルクのバーンシュタット地域開発団地全体は超近代的、機能的かつ、効率的にできているが、日本人としては住宅の温もり、ゆとり、絆が感じられなく寂しく感じた。

欧州都市をいろいろ訪問して地方都市の少子化、高齢化問題、移民が深刻な問題になっている。日本ももっと本腰を入れて取り組まねばならないと深刻に危機を覚えた。